

- 1 (1) (与式) $= \int_0^1 \left(\operatorname{Arctan} t + t^2 \cdot \frac{1}{1+t^2} \right) dt = \dots = 1 - \frac{1}{2} \log 2$
- (2) $C = C_1 + C_2$, $C_1 : (x, y) = (t, 0) \ 0 \leq t \leq 1$, $C_2 : (x, y) = (1, t) \ 0 \leq t \leq 1$ より
 (与式) $= \int_{C_1} xy \, dx + (x^2 - y^2) \, dy + \int_{C_2} xy \, dx + (x^2 - y^2) \, dy = \int_0^1 0 \, dt + \int_0^1 (1 - t^2) \, dt = \frac{2}{3}$
- (3) $C = C_1 + C_2$, $C_1 : (x, y) = (t, t^2) \ 0 \leq t \leq 1$, $-C_2 : (x, y) = (t, t) \ 0 \leq t \leq 1$ より
 (与式) $= \int_{C_1} (x^2 + y^2) \, dx + 2xy \, dy - \int_{C_2} (x^2 + y^2) \, dx + 2xy \, dy = \dots = 0$
- (4) $C : (x, y) = (\cos t, \sin t) \ 0 \leq 2\pi$ より (与式) $= \int_0^{2\pi} \{(-\sin t)(-\sin t) + \cos t \cos t\} \, dt = 2\pi$
- (5) $D = \{(x, y) \mid (x-2)^2 + y^2 \leq 4\}$ とすると、 $e^x \sin y$, $e^x \cos y$ は \mathbf{R}^2 上で C^∞ -級であるから Green の定理を用いれば
 (与式) $= \iint_D \left\{ \frac{\partial}{\partial x}(-e^x \sin y) - \frac{\partial}{\partial y}(e^x \cos y) \right\} \, dx \, dy = \iint_D \{-e^x \sin y - (-e^x \sin y)\} \, dx \, dy = 0$
- 2 (1) $y = 0, y = -1$ がともに解であることに注意する。与式より、 $\frac{1+2y}{y(1+y)} \, dy = -\frac{2x}{1+x^2} \, dx$.
 $\int \frac{1+2y}{y(1+y)} \, dy = \int \left(\frac{1}{y} + \frac{1}{1+y} \right) = \log |y(1+y)|$, $-\int \frac{2x}{1+x^2} \, dx = -\log(1+x^2)$
 よって、 $\log |y(1+y)| = -\log(1+x^2) + C$, 即ち、 $y(1+y) = \frac{\pm e^C}{1+x^2}$. ここで $A = \pm e^C$ とすると、以上のことより $y(1+y) = \frac{A}{1+x^2}$ (A は任意定数) を得る。
- (2) 与式より $\int \frac{dy}{1+y^2} = \int \frac{dx}{1+x^2}$ となるから、 $\arctan y = \arctan x + C$ を得る。²
 よって $C \neq \frac{\pi}{2} + n\pi$ (n は整数) のとき加法定理より、 $y = \tan(\arctan x + C) = \frac{x + \tan C}{1 - x \tan C}$,
 ここで $A = \tan C$ とおき $y = \frac{x+A}{1-Ax}$ (A は任意定数) を得る。
 $C = \frac{\pi}{2} + n\pi$ (n は整数) のときは $\arctan y - \frac{\pi}{4} = \arctan x + \frac{\pi}{4} + n\pi$ と変形してから加法定理を用いることで、 $\frac{y-1}{1+y} = \frac{x+1}{1-x}$, 整理して $xy = -1$ を得る。
- (3) 与式を変形して $2\frac{y}{x} + \left\{ \left(\frac{y}{x}\right)^2 - 3 \right\} \frac{dy}{dx} = 0$ より、 $u = \frac{y}{x}$ とおくと $2u + (u^2 - 3) \left(u + x \frac{du}{dx}\right) = 0$,
 これを整理して $\frac{u^2-3}{u(u^2-1)} \frac{du}{dx} = -\frac{1}{x}$, ただし $u = 0, u = -1, u = 1$ も解である。 $\int \frac{u^2-3}{u(u^2-1)} \, du =$
 $\int \left\{ \frac{3}{u} - \frac{1}{u-1} - \frac{1}{u+1} \right\} \, du = \log \left| \frac{u^3}{u^2-1} \right|$ より、 $\log \left| \frac{u^3}{u^2-1} \right| = -\log |x| + C$, 即ち、 $\frac{u^3}{u^2-1} = \frac{A}{x}$
 ($A = \pm e^C$) を得る。以上より $u = \frac{y}{x}$ から x, y の式に戻すと、 $y^3 = A(y^2 - x^2)$ (A は任意定数), $y = x, y = -x$ となる。
- (4) $x \frac{dy}{dx} - y = 0$ を解いて $y = Ax$. よって定数変化法により与えられた方程式の解は $y = A(x)x$ とできる。与式より $A'(x) = \frac{\log x}{x}$ であるから、 $A(x) = \int \frac{\log x}{x} = \frac{1}{2}(\log x)^2 + C$ より、
 $y = x \left\{ \frac{1}{2}(\log x)^2 + C \right\}$ (C は任意定数) となる。

3 1月29日に配布したハンドアウト p.124 例6.1.4を見よ。

¹注意 この「試験の解答の要点」は解答の要点である。そのままの答えでは完全な解答とは言えない。尚、誤りを含む可能性もある。(これは採点時に修正する。) 配点は **1** が各5点、**2** が各7点、**3** が8点で、満点は61点である。

²ここで、 $\arctan x$ は $(-\frac{\pi}{2}, \frac{\pi}{2})$ を値域にするとは限らないことに注意せよ。つまりある整数 m, n があって、 $\arctan x \in (-\frac{\pi}{2} + m\pi, \frac{\pi}{2} + m\pi)$, $\arctan y \in (-\frac{\pi}{2} + n\pi, \frac{\pi}{2} + n\pi)$ と考えている。